

2011年の回顧と2012年の展望

繊維部会

全報告の纏め

2011年の回顧と2012年の展望 (綿糸貿易)

1. 2011年度の回顧

(1) 綿糸の輸出及び輸入実績

年度	為替レート (期中:対ドル)	輸出				輸入			
		数量		金額		数量		金額	
		(トン)	前年比	(千ドル)	前年比	(トン)	前年比	(千ドル)	前年比
2006年	2.2	21,395	-14.5%	56,118	-7.5%	15,005	95.9%	44,856	106.9%
2007年	1.9	10,966	-48.7%	30,201	-46.2%	21,370	42.4%	66,582	48.4%
2008年	1.8	4,408	-59.8%	16,659	-44.8%	66,758	212.4%	199,320	199.4%
2009年	2.0	1,656	-62.4%	7,672	-53.9%	36,308	-45.6%	105,655	-47.0%
2010年	1.8	1,348	-18.6%	8,772	14.3%	70,373	93.8%	238,617	125.8%
2011年	1.7	672	-50.1%	6,777	-22.7%	31,193	-55.7%	139,370	-41.6%

(2)回顧

2011年上期の綿糸輸出は672トン(前年比▲50.1%)、綿糸輸入は31,193トン(前年比▲55.7%)で共に大幅減少となった。綿糸輸出は、レアル高により国際競争力を喪失、定番綿糸の輸出は実質ゼロといえる。綿糸輸入は、国内綿糸需要が極度に悪化した為、前年比半減以下に落ち込んだ。

【参考】繊維製品全体(除く、繊維原料)の輸出入実績

年度	為替レート (期中:対ドル)	輸出				輸入			
		数量		金額		数量		金額	
		(トン)	前年比	(千ドル)	前年比	(トン)	前年比	(千ドル)	前年比
2006年	2.2	334,601	-2.3%	1,624,925	-0.4%	598,624	31.6%	1,920,088	41.6%
2007年	1.9	325,109	-2.8%	1,675,637	3.1%	743,980	24.3%	2,733,589	42.4%
2008年	1.8	284,656	-12.4%	1,562,530	-6.8%	863,220	16.0%	3,591,263	31.4%
2009年	2.0	211,426	-25.7%	1,094,163	-30.0%	826,580	-4.2%	3,320,362	-7.5%
2010年	1.8	219,711	3.9%	1,253,330	14.5%	1,094,250	32.4%	4,800,841	44.6%
2011年	1.7	199,413	-9.2%	1,259,896	0.5%	1,078,294	-1.5%	5,967,164	24.3%

繊維製品全体(除く、繊維原料)の輸出は、殆どの品目が数量ベースで減少。輸入は数量ベースで微減だが、金額ベースでは前年比24.3%増となった。要因は素材相場の上昇によるものである。

尚、2011年度の製品輸入(数量ベース)は統計には表れていないが、上半期に大量の冬物衣料が違法に輸入されたのではないかと業界関係者に指摘されている。

2. 2012年度の展望

綿糸輸出は、レアル高による国際競争力喪失により当面復活の見込みはない。綿糸輸入は、ブラジル国内綿糸相場が回復、需給が逼迫すれば、2011年度比増勢に転じる可能性がある。

2011年の回顧と2012年の展望（ファスナー）

2012年1月23日
YKK
中川

<2011年の回顧>

・衣料の輸入品は大幅に伸び、通年で前年比60ポイント上昇となった。依然、中国からの輸入が全体の6割を占めており、伸び率は前年比61ポイントの増加と輸入衣料増加の牽引役となっている。その他、バングラデシュ（前比166%）、インド（同151%）、ペルー（同184%）からの輸入が増加。ファスナーの販売に関して、主力のジーンズ分野においては、顧客の強気の販売予想から前倒し生産が行われ、年初から5月までは堅調な販売が続いた。

しかし、6月の恋人の日のプレゼント需要も、期待されたほど伸びなかったため市場の在庫が高まり、コットンなど原材料価格の高止まりによる顧客の生産抑制傾向も重なり、市況は下降線を辿った。また、11月に入っても、気温が例年通りに上がらないことで夏物の販売が遅れ、回復が期待されたクリスマス商戦においても期待されたほどの販売には至らず、在庫削減のために年明け早々セールが開始されており、全体として厳しい一年となった。

・靴分野では、昨年、サンダルへ飾りとして使用されるファスナーの傾向があったが、今年はそのブームが続かず、一部顧客を残してサンダルへのファスナー使いは大きく減少した。

<2012年の展望>

・欧州債務危機の影響を受け、ブラジルの経済成長は減速傾向にあり、輸入衣料の増大が国内衣料生産の発展を妨げており、強く懸念される。しかし、中間所得層が増加するブラジルの内需市場は継続して拡大を続けると見られ、ブラジル政府による安価な輸入衣料への対策とあいまって、12年に向けて期待される材料はある。

・店頭在庫の調整に関して年明け早々繰上げで行われているが、特に主力のジーンズ分野に関して、暫くは時間がかかる見込みだが、在庫の調整後一挙に動く可能性もあり、今後在庫の消化具合を見極めていく必要がある。

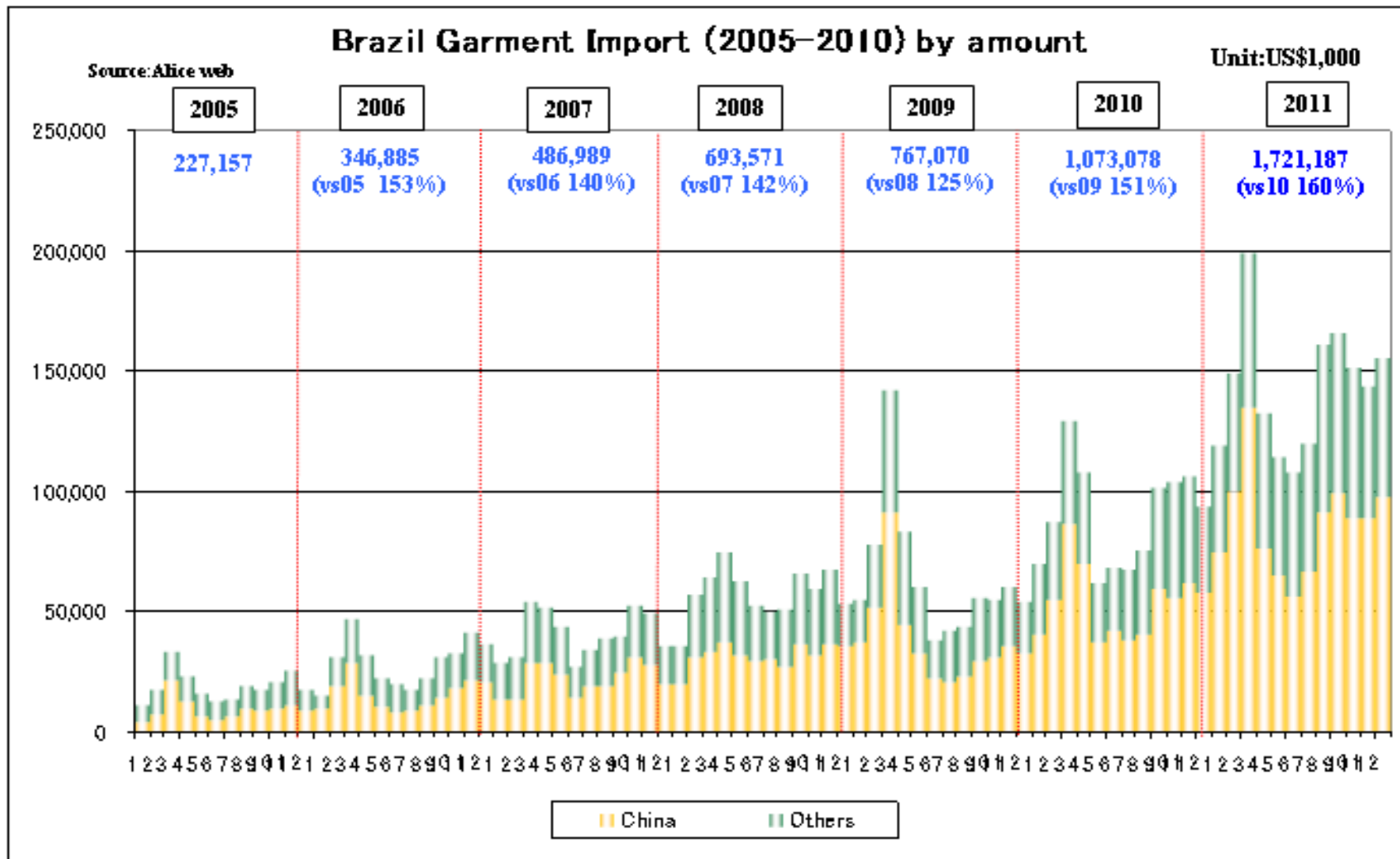
* 10年より減少したものの、11年も引き続き見られたサンダルへのファスナーの飾り使いが更に減少するものと見られ、顧客のコレクション情報を適宜つかむなどして対応していく。

以上

©ブラジル衣料輸入実績

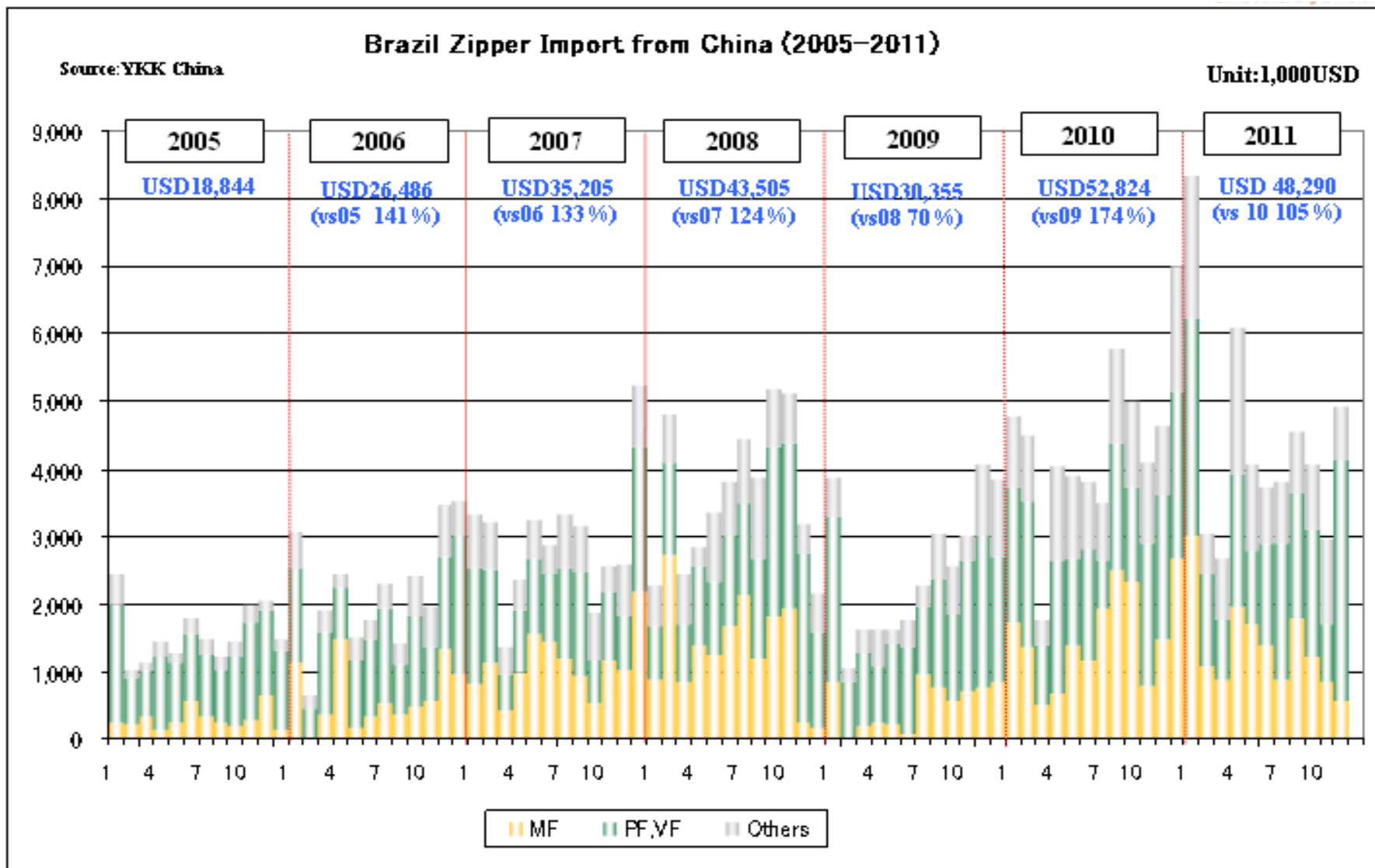
単位：千米ドル（FOBベース）

Source: Alice Web



◎ブラジルファスナー輸入実績

単位：千米ドル



2011年の回顧と2012年の展望 紳士、婦人服地小口販売市場の動向

2011年の回顧

昨年は2010年の高成長を誰もが続くと期待していたが、綿の高騰や中国等の消費拡大からの全素材の値上がりで市場がストップ状態で年が始まった。

冬物商戦も母の日までに寒くならず期待はずれとなり、春夏物も年末まで涼しく苦戦、クリスマス商戦も盛り上がりなく終わってしまった。1年を通して、市場の動きが悪く不透明な年だった。

市場動向

綿の値上がりは上半期には生地、縫製品へのコストアップとなり、小売屋に高値で並ぶことになった。店頭価格の値上がりと冷夏とで下半期の夏物の動きは非常に悪かった。ユニホーム、婦人服は堅調に推移したが、紳士服は今年更に動きが悪くなり、価格競争が激化した。

小売業界

天候には恵まれなかった年だったが、繊維業界の中では一番の成長株で、今年も10%前後売上げを伸ばした所が多い。チェーン店も多店舗化に力を入れた。また、コストダウンをする為に仕入れ先を国内から海外製品に替えて行くところが多くなった。

アパレル

1年を通して苦戦、冬物、夏物共に小売からの追加注文が入らず生産、売上げ共に5%—10%落とした所が多い。特に中級以下の価格滞は中国製品に市場を奪われた。縫製工場の中には、国内の生産を諦め、自ら製品輸入を始めた所も現れた。

輸入業界

2011年の生地の輸入量は前年比3.37%アップ、既製服が41.22%アップだった。上半期にレアウ高が続き、既製服輸入業者の増加に拍車をかけた。生地輸入業者は縫製業界と共に苦戦した。

2012年の展望

高価格の綿製品が一巡して、市場から一掃され綿製品の動きが良くなるように期待します。今年約70件のショッピングセンターがブラジルにオープンする予定です。ブラジルの国内消費量はまだまだ伸びると期待します。

以上

2011年の回顧と2012年の展望
[薄地織物/合織]

[1] 薄地織物

		2009年		2010年		2011年	
		数量 (ton)	金額 (千US\$)	数量 (ton)	金額 (千US\$)	数量 (ton)	金額 (千US\$)
輸出	繊維品全体(原料込)	795,305	1,895,977	805,420	2,265,485	1,025,143	3,012,954
	織物 [注1]	30,155	203,569	30,170	217,006	28,231	248,063
	綿	22,678	144,678	22,720	164,333	20,612	190,969
	合織	7,126	52,113	7,026	44,588	7,236	48,836
輸入	繊維品全体(原料込)	913,776	3,480,578	1,220,590	5,037,977	1,313,724	6,567,485
	織物 [注1]	117,790	513,608	180,475	833,885	217,836	1,140,796
	綿	27,604	136,340	50,877	275,835	56,885	394,964
	合織	88,930	351,050	126,470	514,904	156,654	696,890
輸出入収支	織物	△ 87,635	△ 310,039	△ 150,305	△ 616,879	△ 189,605	△ 892,733

生産	織物	1,376,115	1,451,801		
	薄地 [注2]	481,397	512,688		N.A.
	綿	261,798	273,060		
	合織	212,055	229,829		

[注1] その他天然繊維を含む。 [注2] 薄地織物 121~200 g/m²

[1] 薄地織物

① 2011年の回顧

- 織物輸入は引続き増加、国内産を輸入生地置き換える傾向は続いているが、全体的な需要減で、10年のような大幅な増加には至っていない。顕著な動きとして、先染格子柄の輸入が増加した(数量不明)。
- 生産統計は未発表だが、需要の減少で、国内生産は対前年比減少と推測される。

原綿価格の高騰を、織物価格へ転嫁したが、許容限度を超え、アパレルの生産減となった。

製品輸入の増加で、国内縫製が減少。

公共投資の停滞で、ユニフォーム需要が減少。

販売減 → 在庫増 → 生産調整。

② 2012年の展望

- 輸入品対策として、非正規輸入の取り締まり強化・輸入許可審査の厳格化などが始められており、効果が発揮されると期待している。
- ブラジル経済の回復(賃金↑、金利↓等)やインフラ投資の再開による需要増も期待している。

[2] 合 織 [ファイバー/糸]

		2009年		2010年		2011年	
		数量 (ton)	金額 (千US\$)	数量 (ton)	金額 (千US\$)	数量 (ton)	金額 (千US\$)
輸出	合織 (sintetico)	12,517	34,852	22,640	104,155	16,080	80,562
	化織 (Artificial)	14,486	53,429	15,725	60,416	8,850	44,409
輸入	合織 (sintetico)	278,864	519,083	331,839	733,667	312,921	853,868
	化織 (Artificial)	31,741	75,928	28,641	75,751	23,376	73,484
輸出入収支		△ 283,602	△ 506,730	△ 322,115	△ 644,847	△ 311,367	△ 802,381

生産	合織 (sintetico)	258,700	—	317,728	—	268,668	—
	化織 (Artificial)	45,976	—	37,092	—	32,867	—

[注3] 合織 (Sintetico)は、ポリエステル、ナイロン、アクリル。 化織 (Artificial) (ビスコース他)。

[注4] 2011年の生産量は、推定値。

① 2011年の回顧

- (繊維全般に言えることだが) 製品輸入の増加は、国内生産の減少を招き、生産に必要な原料輸入も減少した。

② 2012年の展望

- (織物同様に)ブラジル経済回復による需要増と、製品輸入抑制策の効果을期待したい。

2011年の回顧と2012年の展望 (国内綿糸)

Kurashiki do Brasil Textil Ltda.

1. 2011年の回顧

2011年の綿糸相場は、第1四半期は綿花の暴騰に対応した値上げを実施し利益を確保できたものの、4月以降、市況は激変し年末まで回復の兆しすらないまま2012年を迎えた。紡績各社は、マーケットの冷え込みと中国をはじめとしたアジア諸国からの製品または生地の入品増加による需要減退で過剰在庫を抱え、売値がコスト以下になっても販売量確保のため、更なる値下げ競争を展開する異常事態が下半期を通じて継続した。

2011年12月の糸値は、2年前2009年末の糸値とほぼ同水準となった。しかし、原料の綿花相場は2009年末と2011年末の比較では2011年末が22%も高くなっている。ある程度連動していた綿花相場と綿糸相場の関係が大きく崩れた。綿糸におけるコスト構造が変更を余儀なくされた激動の年となった。

2. 2012年の展望

2011年末に、ブラジル政府は国内繊維産業の保護を目的とした、繊維衣料製品に対する特別関税を導入し輸入税の引き上げを検討していることを発表した。すでに原案は作成済みで、今後WTOとの交渉を進め3月末をめどに導入することを目指しているというものだ。実施に至るまでには紆余曲折があり、予定どおりに進むかは予断を許さないが、実施となれば繊維製品輸入に対するけん制となり、衣料品生産の国内回帰による綿糸需要の回復につながるのでは、と期待を寄せている。

今年に入り綿糸需要は回復基調となったが、持続した本格的回復かどうかはまだ見極めが必要である。さらに、大きくコスト割れした価格の回復にはさらに時間を要すると推測される。ただ、在庫に関しては紡績から縫製まで各工程を通して、昨年後半ほどの過剰感は薄れている。安定した利益を確保し業界として生き残るため、一層のコストダウンをはじめとした自助努力と、業界が一体となって政府に働きかけ繊維産業を維持していくための環境作りを推し進める厳しい1年となるだろう。

綿糸相場推移

単位R\$/kg A Vistaベース ICMS等込み

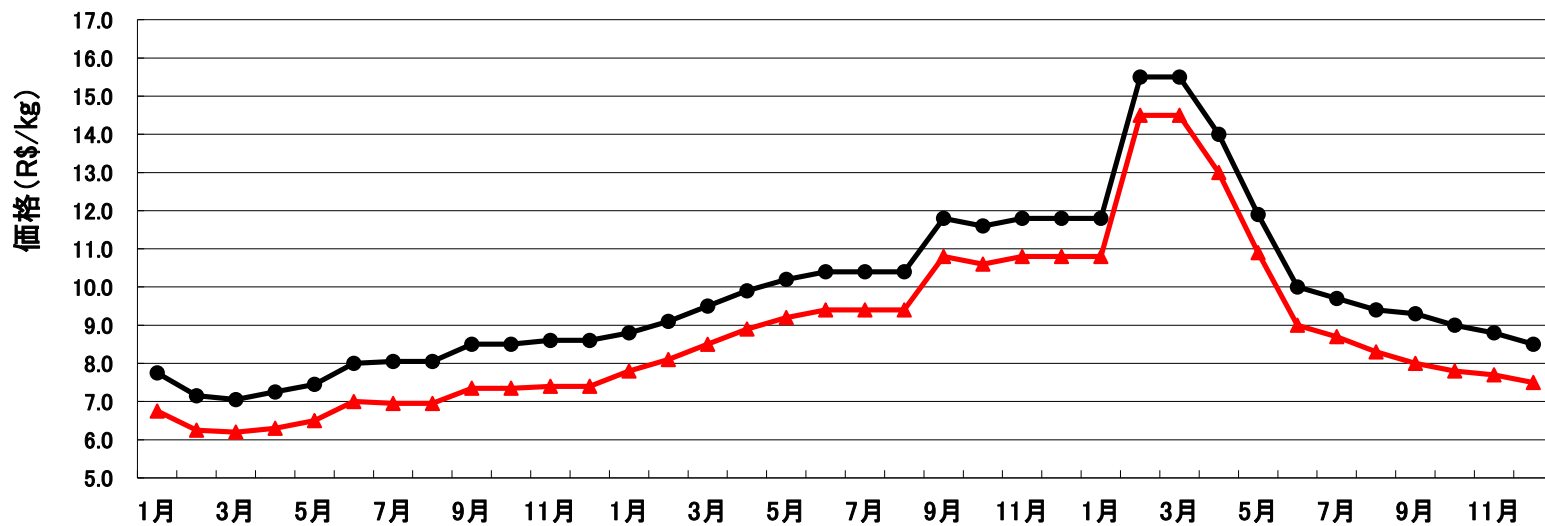
番手	年月度	2009年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	コーマ 30/1	7.8	7.2	7.1	7.3	7.5	8.0	8.1	8.1	8.5	8.5	8.6	8.6
	カード 30/1	6.8	6.3	6.2	6.3	6.5	7.0	7.0	7.0	7.4	7.4	7.4	7.4

番手	年月度	2010年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	コーマ 30/1	8.8	9.1	9.5	9.9	10.2	10.4	10.4	10.4	11.8	11.6	11.8	11.8
	カード 30/1	7.8	8.1	8.5	8.9	9.2	9.4	9.4	9.4	10.8	10.6	10.8	10.8

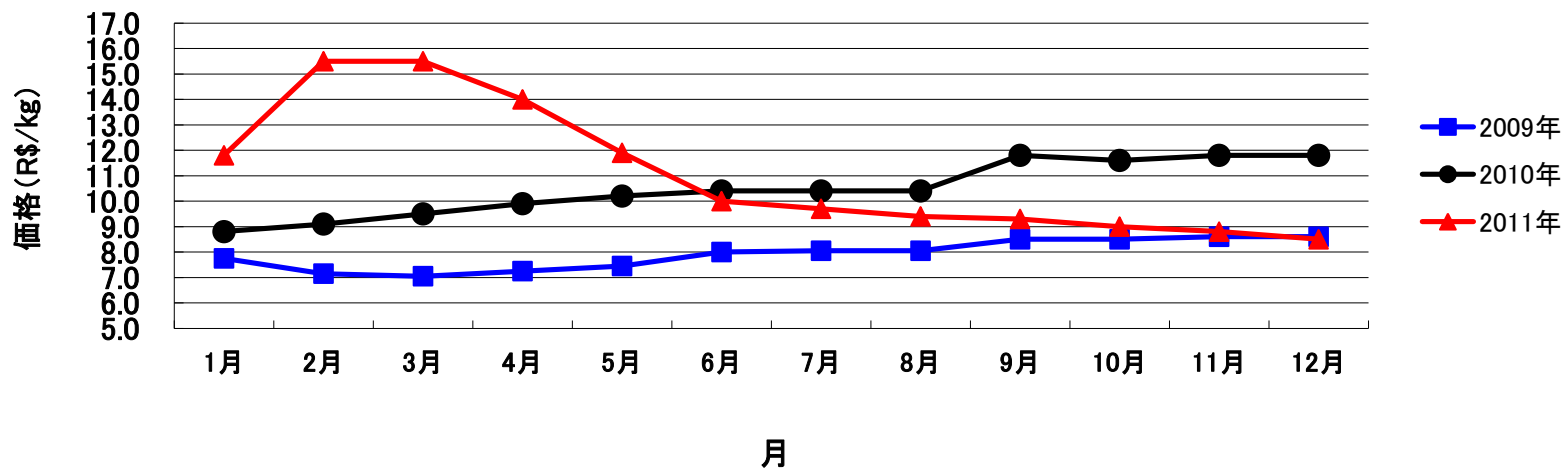
番手	年月度	2011年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	コーマ 30/1	11.8	15.5	15.5	14.0	11.9	10.0	9.7	9.4	9.3	9.0	8.8	8.5
	カード 30/1	10.8	14.5	14.5	13.0	10.9	9.0	8.7	8.3	8.0	7.8	7.7	7.5

綿糸相場まとめ

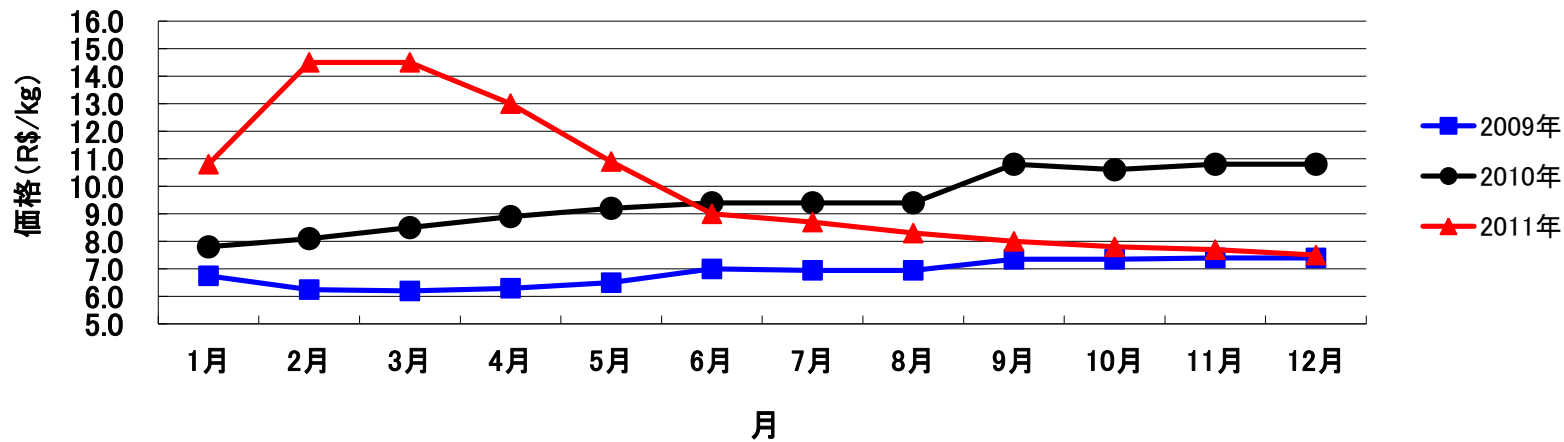
▲ カード30/1 ● コーマ30/1



コーマ30/1(年度比較)



カード30/1(年度比較)



2011年の回顧と2012年の展望

1 2011年の回顧

2010年末から高騰を続けた原綿相場が3月には一転暴落に転じた。

原料高に連動した糸値の高騰にユーザーが付いてこれず需要が停滞した事に加え、原料安から糸値の下落を期待した買い控えが起こり、また縫製加工品の輸入急増も有った事で、糸需要は大幅に減退した。

紡績各社は大量の製品在庫を抱え、減産体制を続けたが、在庫処分での値崩れも有り、糸市場は年末まで回復の兆しを見ることは出来なかった。

特に空紡糸が使用される冬物衣料は、安い輸入品に市場を蚕食され、年初から減産を余儀なくされた最悪の年となった。

糸価格推移

単位; R/kg

	2008下期		2009上期		2009下期		2010上期		2010下期		2011上期		2011下期	
	価格	%	価格	%	価格	%	価格	%	価格	%	価格	%	価格	%
24/1	5.76	-9.4	5.42	-5.9	5.4	-0.4	7.05	30.6	8.0	13.5	8.5	6.4	5.88	-30.9

衣料品輸入高

単位; 千ト

	2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011	
	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%
合計	50		60.7	21.2	71.9	18.6	83.3	15.7	80.4	-3.5	108.7	35.2	131.7	21.1

注)2011年は11月まで

織物品輸入高

単位; 千ト

	2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011	
	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%
合計	86.3		105.5	22.3	158.3	50.1	200.4	26.6	191.8	-4.3	301.5	57.2	288.2	-4.4

注)2011年は11月まで

2 2012年の展望

ここにきて、政府は漸く繊維業界の窮状に気付き、輸入抑制に手を打つ事になった。

空紡糸の主力用途の冬物衣料については、小売段階での在庫も減ってきており、輸入品の圧力が減ってくれば実需の回復に繋がってくると期待している。

昨年は一人紡績だけが赤字の状況にあったが、2012年も同じ状態が続くのであれば、ブラジルでの繊維加工業は成り立たない事態となる。

これからも業界が一致して政府に働きかける姿勢を強めていかなければならない。

2012年は、繊維業界にとって、生き残りをかけた勝負の年になる。

織物、縫製品の輸入実績

ABIT 資料—Sanyotex

	1月-12月/2010			1月-12月/2011			2011/2010 + (%)		
	1000US\$	TON	US\$/Kg	1000US\$	TON	US\$/Kg	1000US\$	TON	US\$/Kg
織物全体	1,356,799	301,468	4.50	1,588,250	311,613	5.10	17.06	3.37	13.25
綿	275,835	50,877	5.42	394,964	56,855	6.95	43.19	11.81	28.07
合織	430,162	109,375	3.93	582,222	137,556	4.23	35.35	25.77	7.62
毛	13,943	458	30.46	15,771	548	28.77	13.11	19.76	-5.55
ニット	522,912	120,993	4.32	447,454	93,777	4.77	-14.43	-22.49	10.4
縫製品全体	1,237,392	108,655	11.39	1,954,353	144,153	13.56	57.94	32.67	19.05
既製服	1,073,096	68,273	15.72	1,721,152	96,141	17.85	60.39	41.22	13.58
寝具,台所,トイレ用品	102,005	21,400	4.77	145,189	23,453	6.19	42.34	9.54	29.88

2012/1/18

繊維部会資料

OMI DO BRASIL TEXTIL S/A 横山

件名:国際原綿 2011年の回顧と2012年の展望

綿花相場

単位:USC/LB

NY定期	2011年12月限			2012年3月限		リハポール・インデックス	
	月末引値	月間安値	月間高値		月末引値		A
2011年 1月	114.20	99.29	114.20		107.80		193.25
2011年 3月	132.50	116.69	132.50		126.58		221.95
2011年 5月	135.50	115.61	135.50		125.87		164.75
2011年 7月	101.77	96.76	117.81		99.36		N Q
2011年 9月	100.19	99.29	113.67		97.42		112.65
2011年11月	90.31	89.95	103.50		90.91		99.85
2011年12月	-	90.70	93.37		91.80		96.65

世界綿花需給予想

(2012年1月12日米農務省発表)

単位:100万俵(480ポンド俵)

11/12年度	季初在庫	生産	輸入	国内消費	輸出	季末在庫	在庫率	世界生産 対比	世界消費 対比
世界	45.4	122.8	36.5	110.0	36.5	58.4	53.1%	-	-
米国	2.6	15.7	0.0	3.6	11.0	3.7	25.3%	12.8%	3.3%
中国	11.6	33.5	16.0	44.0	0.1	17.1	38.7%	27.3%	40.0%
インド	6.2	27.0	0.5	19.5	6.0	8.1	31.8%	22.0%	17.7%
パキスタン	2.7	10.0	1.3	10.3	0.5	3.2	29.4%	8.1%	9.4%
ブラジル	7.9	9.0	0.1	4.3	3.9	9.0	109.3%	7.3%	3.9%

10/11年度	季初在庫	生産	輸入	国内消費	輸出	季末在庫	在庫率	世界生産 対比	世界消費 対比
世界	44.4	115.3	35.7	114.3	35.7	45.4	39.7%	-	-
米国	3.0	18.1	0.0	3.9	14.4	2.6	14.2%	15.7%	3.4%
中国	15.3	30.5	12.0	46.0	0.1	11.6	25.2%	26.5%	40.2%
インド	6.1	25.4	0.5	20.7	5.0	6.2	24.1%	22.0%	18.1%
パキスタン	3.1	8.8	1.5	10.0	0.6	2.7	26.4%	7.6%	8.7%
ブラジル	4.4	9.0	0.7	4.3	2.0	7.9	149.1%	7.8%	3.8%

1) 2011年の回顧

2011年7月末の世界季末綿花在庫率が、40%を切るという極めて逼迫した需給ポジションを背景に、2011年上期には未曾有の綿花暴騰相場が現出した。年初から上昇を続けたNY定期は、3月4日の期近物引値で140年の商品取引史上最高値の215.15セント/ポンドを記録した。中国を中心とした綿花輸入国の狼狽買いと投機筋の介入が、この高騰相場を下支えしたが、製品市況の崩壊から綿糸価格は急落し、紡績は操業縮小や既契約原綿のキャンセルに転じた。

この結果2011年下期にはNY定期相場は反落し、7月には期近物が100セント/ポンド前後で推移し、さらに年末には91.80セント/ポンドの水準に至った。

2011年は、まさに綿花相場史上類を見ない歴史的な変動の一年となりました。

2) 2012年の展望

今季2011/12年の世界綿花生産量は前年度比6.5%増加、世界綿花消費量は前年度比4%減少、さらに世界季末在庫は前年度比約30%増加が予想されている。大幅な需給バランスの緩和、綿糸市況の回復遅れ、BRICS新興諸国の経済成長減速などを考慮すると、綿花相場を押し上げる材料は乏しいと言える。

しかし、大豆やとうもろこしなどの競合作物相場や原油価格が高止まりしており、綿花相場も投機筋からの買いに支えられ95セント/ポンド前後の統計的には高値水準を維持している。

今後EUユーロ危機が世界経済に及ぼす影響など懸念材料も多く、実需面だけから綿花相場動向を予測することは危険ではあるが、基本的には相場は弱含み推移と見るのが妥当と考える。

2011年の回顧と2012年の展望（国内原綿）

国内原綿生産（x1000トン）

CONAB 2012年1月発表

	2009年	2010年	2011年	2012年 (予想)
生産	1,213	1,194	1,959	1,992
輸入	15	70	145	35
消費	948	1,015	930	970
輸出	480	487	758	830
期末在庫	400	163	492	720

2011年の回顧

昨年末にR\$2.91で引けた綿花相場（ESALQ）は、2011年に入り、新綿入荷（7月頃）迄の原綿不足が見込まれる中、NY相場が世界綿花需給の逼迫感の高まり、投機マネーの流入で連日高騰、その影響もあって、ESALQは、3月15日のR\$4.01の史上最高値迄大暴騰した。その後、新綿の増産が確実となる発表、NY相場の値崩れ等で相場は反転7月のR\$1.58の大暴落と相場の乱高下が起きた。綿花生産量は190万トンと前年度より大幅に増産したが、良品質綿不足で紡績はその対応に苦慮、綿花生産者の売り控えもあって、相場は、高値で推移した。

2012年の展望

綿花生産量は昨年並みの190万トン前後が見込まれている。古綿は、十分な量があるが、良品質綿不足が相場を強くしている。国内相場は、もはやNY相場に連動していると見て良いが、2012年期末在庫が72万トと余りにも大きな数量で、この綿花の需給バランスで見ると、相場は弱含みを予想されるが、投機マネーの動向、綿花生産者の資金的ゆとりの売り控え等で、不透明な相場が推移すると予測される。